

# 海老名市立杉久保小学校 学校運営協議会 議事録

(令和5年9月22日)

- 1 日時 令和5年9月22日(金) 10:00～
- 2 場所 海老名市立杉久保小学校校長室・体育館
- 3 出席委員 伊藤 健三 委員長、山室 修次 委員、金子 由美子 委員、前田 正晴 委員、川口 竜史 委員、坂野 千幸 委員

## 4 会議の内容

### (1) 学校の様子について (途中、音楽集会の参観あり)

坂野校長：1学期、夏休みともに、特に大きな事故等もなく、子どもたちは元気に過ごせた。2・4・5年生は今日の音楽集会に向けてよく練習してきた。(今後の計画について、レジュメをもとに説明。「わいわいフェスタ」「子どもの森整備事業」「ひびきあう教育研究発表会」等)

伊藤委員長：開校当時、教務主任として赴任した。この学校の元の土地は田んぼだった。当時の教育長が、プール用地予定の「子どもの森」を残すことを決め、プールの場所を変えてくれた。また、封鎖される予定だった横井戸も残し、現在の池になっている。

山室委員：子どもの森の整備がされ、森に子どもたちも入りやすくなった。「いきものがかり」のメンバーが、母校である杉久保小の森について様々な方面でコメントを残している。卒業生にとっても森は大切な存在である。

前田委員：「子どもの森」は、まさに子どもの実体験からの学びを育んでいる。

山室委員：危険な桜が伐採されたというが、一昨年植樹もしている。森をどう再生していくかが大切。

伊藤委員長：危ないから「切る」だけでなく、共生する意識も大切。子どもにも教えていく必要がある。

前田委員：木に限らず、本来わかるべきことがわからないと思う。ゲーム世代が心配。また、不登校等の対応も、地域でなにかできないかと思う。不登校がそのまま地域の引きこもりになる可能性もある。

山室委員：「まなびっ子」に関わっているが、学習の基礎基本の定着は大切。高校生でも学習のつまずきは小学校段階から起こっている。算数や国語の力は、地域全体の力につながる。

前田委員：音楽集会等、コロナ前に比べ、様々なものが復活しているのがわかる。子どもたちはとてもよくやっている。

川口委員：子どもたちの頑張りがとてもよく伝わってきた。のびのびと取り組んでいるのがわかる。

伊藤委員長：学校予算等、学校教育に余計な負担がかからないように行政側にも考えてほしい。子どもたちが自分の力でやっていけるよう、協力しながらやってもらいたい。

金子委員：地域の子どもとして、プライベートでも顔を合わせる関係を大切にしたい。

伊藤委員長：子どもが大事にされていない社会であると感じることがある。地域として、そのような社会を変えていければと思う。

## (2) その他

次回の日時・内容について

- ・令和6年2月7日(水) 1・3・6年音楽集会日を予定
- ・令和5年度全国学力学習状況調査結果について
- ・令和6年度学校予算について